

平成29年度 第1回今治市総合教育会議 議事録

1 日 時 平成29年5月9日（火）

午前10時30分～午前12時

2 場 所 今治市役所本館2階庁議室

3 出席者 今治市長 菅 良二

今治市教育委員会

教育長 八木 良二 委 員 藤井 信子

委 員 村上 浩一 委 員 篠宮 博幸

委 員 竹田 美和

(事務局関係)

総務部長 渡辺 英徳

総務部総務調整課長 山本 啓司 課長補佐 宮崎 晃嘉

同課 主事 豊嶋 康二

教育委員会事務局

事務局長 林 秀樹

事務局次長（総務課長） 橋田 裕旨

事務局次長（学校教育課長） 高橋 隆司

社会教育課長 八木 輪吾 文化振興課長 真部 春樹

体育振興課長 塩見慎一郎 学校給食課長 丹下 義人

---

(菅市長)

あらためまして、皆さんおはようございます。

昨年の日高少年野球クラブに続いて城東野球軍団という城東地域を中心とした少年野球チームが愛媛県で見事優勝し、全国大会に行くといううれしいニュースもあった。中学校のほうもかなり頑張ってくれている。小学校の場合には先生方もさることながら、地域の方にもかなり貢献をいただいて、愛媛の中でも毎年今治がいい

ところにつけているのではないかと思う。

中学生になりますと、3年生はあっという間に6月を迎え、そこで成績を残して、四国、全国に向けて頑張っていく。先生方のご負担も随分あるかと思えますけれども、振り返ってやっぱりあの中学時代のあれがよかったなと思えるよう何か団体で行ってくれたらとてもありがたいなと思う。

これからも後に伝えられるものを今残しておきたいという思いでこの29年度頑張っていきたい。

(八木教育長)

重責を拝命して2箇月余りが経ち、その間、今治市の教育に関しましてうれしいニュースもたくさんあり、本当にありがたい職に就かせていただいたと思うと同時に、考えなければならぬ課題もたくさんあり、これからしっかり一生懸命やっていかなければならないと改めて思っている。

(村上委員)

3月9日付けで教育委員を拝命した。私は、教員をしていた学校はもちろん、宮窪町教育委員会、今治教育事務所、東予教育事務所、そして昨年度は今治市教育委員会でも勤めた。少しでも今治市の教育のお役に立てるよう努めてまいりたい。

(竹田委員)

おはようございます。3月1日付で教育委員を拝命させていただいた。まだまだ何が何かわからないまま、がむしゃらに進んでいる状態である。最近それでも少し考えることも多くなり、仲間ともいろいろ話をしていく中で気づくこともたくさんあり、これから子どもたちの教育のことも、もっともっと勉強して知識を付けて頑張るっていきたいと思う。

**【昨年の会での市長よりの提案「グローバル人材育成としての英語教育の強化・推進」についての報告】**

(林教育委員会事務局長)

通常の授業の中での取組みは難しいから、放課後のクラブでやるという提案である。

目的は、「グローバル人材育成に欠かすことのできない英会話教育の向上を中心に積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する」「小・中の英語教育の円滑な接続を図るための一助とする」「小・中が連携協力して学校・地域としての特色ある教育活動を展開することにより、学校・地域への誇りと自信をもたせる」。対象は、小学校6年生及び中学校1年生から3年生までの希望者。桜井中学校区の桜井中学校、桜井小学校、国分小学校の3校で取り組む。

当面教員、ALTを中心に運営をしていき、その後ボランティア講師を募り小・中学校の教員がサポートする形での運営に移行していきたい。

講師の確保又は講師料、受講料の有無を含め継続可能な運営方法について検討していきたい。

桜井中学校区を想定しているのは、ここに人材が豊富にいるということ、県立東中等教育学校に進学する子どもが多い地域であるということ踏まえた結果である。

(高橋学校教育課長)

平成32年度からの小学校学習指導要領の全面実施により、中学年外国語活動、高学年外国語科に向けて準備を進めていくのは当然であるが、3校を今治市教育研究所の研究指定校として放課後英語クラブの実践研究としたい。

英会話機能を高めたり、長期目標を設定したりして子どもたちが意欲を持ってできるようにしたい。

小学生と中学生がともに学ぶことにより、中学校進学時の不安を解消したり、地元桜井中学校の魅力を高めたりすることができると思う。

---

【報告終了】

(竹田委員)

部活動に係る保護者負担がものすごく大きい部活動がある。聞くと、ある部活動では部費が毎月8千円。年に2回大分と高知に合宿に行っている。実際それだけのお金がかかってくるとやらせたくてもやらせられない家庭も出てくると思う。市や教育委員会である程度把握はしているか。

(菅市長)

竹田委員の発言は中学校の発言ですね。私が冒頭に話した城東野球軍団が全国大会に出場する際に教育委員会で何か助成があるのか。

(林事務局長)

助成制度はあるが、大会の趣旨、主催者などの条件がある。

(菅市長)

今まで、保護者の方から、これはきついわ、これじゃ部活動できないよ、という話は出てるか。

(高橋学校教育課長)

学校現場に任せているというのが正直なところである。費用については保護者と顧問の教員が、どこに遠征に行く、どの大会に出るといった話し合いを持っている。保護者の声も温度差があるので、話し合いをして調整している。

一律にこちらからどうしなさいということとはできないので、保護者との話し合いにお任せしている状況である。

(菅市長)

実体はどうなのか、問題点があるとすればそれをどうカバーするか、自分の好きなスポーツ、種目ができないということがないような形でやるため、各学校ごとの率直な意見も集めてほしい。

(村上委員)

私は後に残せるものは今治の良さ、文化、伝統だと思う。

その根底にあるものは、やはり人のつながりである。声を掛け合って助け合っていく、気持ちよく暮らしていく人のつながりが一番大切であると実感している。

(篠宮委員)

毎日楽しく学校に行っていた子がある日を境に突然休みだすようになる。大半がいじめが原因かと思われる。直ちに学校と相談し早期対処をすることにより大事に至らないケースもある。

いじめの問題につき、文科省の研修で法の整備はしたという説明を受けたが、法では解決できない部分が多くある。重大事態やことの大きさにかかわらず、早期対

処が一番の解決方法である。

(菅市長)

不登校重大事態のことについての説明をしてください。

(高橋学校教育課長)

概要説明

(村上委員)

私の先輩の口癖で「目配り、気配り、心配り、アンテナは高く、早いが命」これに尽きると言っていたが、本当にそうである。

親の孤立も解決を困難にする。保護者も子どもも先生も人のつながりを大切にしながら早期対応が重要である。

(菅市長)

一人で抱え込まずに、周りと相談することが大切。子どもも大人も同じである。

(藤井委員)

英語クラブの件で、地元への進学率のことを考えると、一番心配するのは塾にならないこと。塾とは一線を画した形で運営をされることを切に願う。

英語は語学であり、国語も日本語の語学である。学校での音読の機会が少ない気がする。声を出して読むことは語学のスタートである。単純に口の中の機能の運動だと思っていただいてもいい。公(大勢)の中でのものを言う練習により発音や滑舌、聴き取り易い日本語を話せるようになる。

部活の費用については、部活は個人あるいは家庭の選択です、しないも含めて決めるので、そこは公費でなく私費が原則だと考えている。

いじめの問題につきましては、感情的な部分でしこりが残ると時間がかかるので、そうなると解決が困難になる。

(菅市長)

小学校のとき、音読で先生に褒められ、それから読むのが大好きになった。上手に褒め、自信を持たすことの意義は非常に大きい。褒めてあげることが原点だと思う。

学校では、一番の課題と考えている。学校に行くのが楽しいというふうになる様

に楽しい学校運営をこころがけていただきたい。

以上